

朝晩は涼しく、夜には秋虫の声も聞こえる季節になりました。

秋の長雨、という言葉が昔からありますが、これは夏の暑さをもたらした太平洋高気圧と、大陸からの冷たい高気圧がぶつかり、大気が不安定になることで発生します。

最近では線状降水帯のニュースもよく耳にします。

気象庁の定義によると、「組織化した積乱雲群により数時間にわたり、ほぼ同じ場所を通過、または停滞することで作りだされ、線状に延びる長さが50から300 km程度、幅が20から50 km程度の、強い降水をともなう雨域のこと。」

文字で見ただけでも注意喚起がなされるのも納得の現象ですね。

雨が降ると雷が発生することが増えますが、雷は「いなずま」とも呼ばれ、漢字にすると「稲妻」が一般的です。

「稲妻ひと光で稲が一寸伸びる」なんて言葉もあり、古代には稲は雷を受けると実る、と考えられていたのが語源といわれています。

実際に一寸（約3cm）伸びるというのはさすがに大袈裟ですが、雷が走ると、放電によるエネルギーで空気中の窒素と酸素が結びついて雨に溶け、これが降り注ぐと天然の窒素肥料となって稲がよく育つのだとか。

実際に、米どころでは落雷日数が多いというデータもあるそうです。古い日本語の「つま」は、男女に関係なく夫婦や恋人など大切なパートナーを指す言葉でしたから、雷は「稲」を実らせる「妻」なんですね。

さて、雷ほどのエネルギーはありませんが、現場に御法度なのが静電気。鈴木半商事では、ほこりや異物の付着対策にもなる静電気対策商品も取り扱っています。

お気軽にご相談ください。

